

やっさもっさ新聞は三原を元気にする多くの企業様に支えられ発行しております。

もっと知ってる三原JC！

# ヤコモコ新聞

発行所 一般社団法人 三原青年会議所  
〒723-0052  
広島県三原市皆実4丁目8番1号  
三原商工会議所内2階  
TEL : 0848-63-3515  
FAX : 0848-62-1141  
mail : info@mihara-jc.com

# ～やっサポを語る～

# 楽しい

達成感

新たな  
出会い



石川さん

山野上さん

## 角本さん

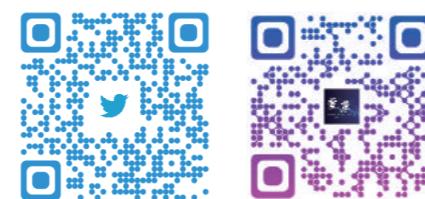
皆様は「やっサポ」をご存じだろうか。

昭和51年(1976年)から始まり、今年で45回目を迎える三原やっさ祭り。三原青年会議所は第1回三原やっさ祭りから実行委員長を輩出し、実行委員会を組織・運営してきた。その中で2014年から新たな取り組みとして始まったのが、三原やっさ祭りを支えていただいくボランティアスタッフ、通称「やっサポ」である。

基本的にブース出展・イベントやステージのサポート・その他スタッフの補助などを行っていただいている。メンバーは高校生を中心に中学生から20代の方で構成される。

一度「やっサポ」を体験すると2年目以降も継続的に参加してしまうらしい?そんな魅力溢れる「やっサポ」に迫った。

今回は過去何度も「やっサポ」を体験、ボランティア活動を通して三原やっさ祭りの発展に寄与していただいている3名のベテランやっサポの皆様にインタビューを行った。



QRコードを読みこんで  
みはらJJCのかっこどうを  
チェックしてみよう!

三原テレビやSNS等で  
情報発信中！  
詳しくは4面をご覧ください



JCI  
Japan

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

# みんなで描こう! ミライの MIHARA

## 三原でVRのテーマパーク!?

今月は近年、さまざまな分野で活用されているVRを取り上げます。本題に入る前に、そもそもVRとは何なのか。ARなどとの違いは何なのかご紹介します。



### ①VR(仮想現実)【没入度・高】

「Virtual Reality」の略です。ヘッドマウントディスプレイを活用し、ディスプレイに映し出された「仮想世界」に、自分が実際にいるような体験ができる技術です。ゲームアトラクションの他に、VR画像を見せながら、ビデオ通話で旅行中の様子をリアルタイムに伝え、疑似的に一緒に旅行ができるサービス。バーチャルキャラクターがリアルタイムに接客できるシステムを活用し、小売店舗や商業施設内で、接客やデモンストレーションを行うサービス。3Dモデルを用いて手術のシミュレーションを出来る、VR外科シミュレーター。災害の疑似体験をすることで、避難のタイミングなどについて体験・学習することができる防災シミュレーターなど活用されています。

### ②AR(拡張現実)【没入度・低】

「Augmented Reality」の略です。VRは別の仮想空間を作り出すのに対して、ARは現実世界にCGなどで作るデジタル情報を加えるものです。つまり、現実世界に仮想現実を反映(拡張)させる技術です。

### ③MR(複合現実)【没入度・中】

「Mixed Reality」の略です。仮想世界を現実世界に重ね合わせて体験できる技術です。MRの場合、ARとは逆で、主体は仮想世界(デジタル空間)となります。現実世界の情報を、カメラなどを通して仮想世界に反映させることができます。仮想世界に現実世界の情報を固定できるため、同じMR空間にいる複数の人間が、同時にその情報を得たり、同じ体験をしたりすることができます。



### ④SR(代替現実)

「Substitutional Reality」の略です。ヘッドマウントディスプレイを活用し、現実世界に過去の映像を差し替えて映すことで、昔の出来事があたかも現在、目の前で起きているかのような錯覚を引き起こします。SRは、まだ実験段階にある技術ですが、人間の認知や心理システムに関わる実験にも活かせるものとして注目されています。

2016年を皮切りに需要が伸びているVR市場。また、VRを体験することが出来るスポットが国内外問わず増えています。そこで、三原のまちでもVRのアーケード施設を設けるはどうでしょうか。従来のテーマパークとは違い、広大な土地やコストが掛かりません。ビルの一角で行なうことが出来ますし、ビル1棟を丸々アーケード施設にすることも出来ます。各階ごとにSFやホラー、脱出ゲームなど違った世界観を創り出すことが可能です。その中の一つとして、三原城をテーマにしたフロアを設けるはどうでしょうか。永禄10年(1567)に、毛利元就の三男・小早川隆景によって築かれた三原城。明治27年(1894)に山陽鉄道・三原駅が本丸に跨る形となるため、一部を残して壊されたため三原城をこの目で見ることが出来ないことが非常に残念です。そこで三原城と城下町をCGで復元を行いVRで、城内を歩き、城下町を散策、また遠方から満潮時に海に浮いたように見えた浮城を見て楽しむ。没入感の高いVRだからこそアリティのある体験が出来ます。遊びに来られた方に三原の歴史や魅力を感じていただく。市民の皆様には体験を通して郷土愛を感じていただけるのではないかと思っています。

### Q1. 何故、参加しようと思ったのですか?

石: 中学生までやっさ踊りに参加していて、その時に祭りの運営がどのように行われているか興味を持ったからです。少しでも三原のまちに貢献できたら良いなと思って参加しました。

山: 元々何か一つボランティアをしておこうという思いがあって、軽いノリで参加しました。

角: 高校生の頃、三原青年会議所が主導し、三原市内の中高生で結成した「やっさChilidren」に参加しました。50日間掛けてイベントを企画・準備してやっさ祭り最終日に子ども向けのイベントを実施しました。その後、やっさ祭りが出来たときに当時お世話をされた三原青年会議所の方から声を掛けられ、参加したことが始まりです。

### Q2. 参加してみてどうでしたか?

石: 三原市の方や三原青年会議所の方など普段接することのない人と交流することができるでの、自分のコミュニケーション力の向上や人間関係の幅を広げることが出来ました。山: まず楽しかったという気持ちが第一にあります。ボランティアの活動を通して色々な人と関わることが出来たりドリンクの販売をした時、買ってくれた方が笑顔で去っていく姿を見て大変嬉しく思いました。角: 達成感と貢献感を強く感じました。若者の力で三原のまちを盛り上げられているのかなと。

### Q3. 他校の学生との交流はありますか?

山: やっさ祭りで仲良くなつた友達とお祭りに行ったりしています。

### Q4. 印象に残っていることはありますか?

石: 4回参加していますが、そこで出会う人が毎回違うのでワクワク感とドキドキ感があり常に新しい気持ちで楽しみながら参加出来ています。山: 2年前に豪雨災害があった時に、募金活動を通して地域の方と繋がっている充実感を覚えました。普段、テキパキ動けるタイプではないのですがボランティア活動を通して人の為に何かしようと思うと体がテキパキ動いて、自分自身ピックリしたことがあります。

角: いつもやりたいことをさせてもらっていて、過去に三原青年会議所が事業でされた水風船を、やっさ祭りでさせてもらったり、自分たちが楽しいと感じるものは子どもたちも楽しんでくれると思うから、まずは自分が楽しもうと思ってボランティア活動を行っています。



### Q5. 得られたものは何ですか?

石・角: 人との出会いです。山: 人とのコミュニケーションであったり、今まで気付かなかつた新たな自分を知ることが出来たことです。また参加者としてだけでなく、運営する人の想いを知れました。

### Q6. 三原のまちに対する思いは変わりましたか?

石: やっさ祭りの活動を通して人のぬくもりに触れ、まちへの愛着が高まりました。都会すぎず田舎すぎないところも好きです。山: 募金活動をした時に地域の団結力の高さや地域の人の優しさに触れ、嬉しかったです。角: 災害の時に家が浸水してご飯を作ることの出来ない方がいたので、土日に食堂を開いていました。そこでの体験を通じて人とひととの繋がりの強さを感じ、この繋がりがあるから三原のまちは成り立っているし、やっさ祭りも盛り上がる事が出来るんだなと感じました。

### Q7. 読者の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

石: やっさ祭りに参加したら、違う学校の人と友達になれたり、三原のまちに貢献出来るし、自分の可能性を広げることが出来るので1日でも良いので参加してみたら良いかなと思います。山: やっさ祭りに参加することで地域の繋がりを知ることが出来たり、自分自身の知らない一面を新たに知ることが出来ます。また、1年間で1番楽しみになるぐらいの魅力があります。自立した3日間を過ごすことが出来

るので、良かったら参加してみてください。角: やっさ祭りはとにかく楽しいんです。やっさ祭りも好きになるし、三原のまちも好きになる。高校・中学時代の思い出の1ページに残ると思うし、色々な人とも出会える。自分にとって良いことしかないし、とにかく楽しいので参加してみてください。



以上、インタビューをお届けしました。終始、インタビューを行う中でお三方のやっさ祭りややっさ祭り、三原のまちに対するアツい想いを感じました。現在、三原の教育機関では地域貢献や地域活動が盛んに行われています。しかし、皆様が一人の市民に戻ったとき、三原の中で活躍出来る場所や機会がまだ少ないのではないかと思っています。三原青年会議所では今後、若者の皆様がこのまちで主体的に取り組める場の創出や事業を行っていきます。皆様の力でこのまちをより良くしていきましょう。